

目指す学校像	グローバル化した国際社会のなかで良き形成者・リーダーとして、心豊かで実践力のある人間を育成する学校。	
本年度の重点目標	<p>1 学力の向上と進路の保障</p> <p>2 礼儀正しい態度の養成</p> <p>3 クラブ活動の育成強化</p> <p>4 地域との連携強化</p>	<p>学ぶことの大切さ、理解することの喜びを体得させ、生徒の実態にあった指導を研究し、魅力的で実力のつく授業の展開を図る。</p> <p>社会の中の一員としての自覚を持たせ、自分を律していくことで自他の心を大事にする必要性をわからせる。</p> <p>生徒の特技や情操を高め、心身の健全な成長を図ると共に、愛校心を育てるためクラブ活動を重視し育成強化していく。</p> <p>地域の文化の砦としての信頼を得ると共に、積極的に交流を深め、地域の活性化の一躍を担う。</p>

学校関係者評価は、PTA 役員、後援会役員、同窓会役員、学園評議員からなる学校関係者評価委員会による。

年度当初			最終評価					
番号	評価項目	現状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	30年度への課題と改善策	学校関係者評価	
1	生徒個々の知的好奇心を掘り起こし、主体的学習習慣を確立させてより高い学力をつけさせる。	学力層の幅が広い。基礎学力の定着に時間のかかる生徒がいるが、学力が高く、成績を上げてきている生徒もいる。	授業を通して基礎学力の定着を図る。また、家庭学習の習慣化を目指す。実力テストや進学基礎講座、スタディサプリ等を活用して学習する機会を増やす。 新コースの取組で体系化された朝学習、宿泊プログラム(軽井沢アクティブプロジェクト、プリティッシュヒルズキャンプ)から勉強の意欲、習慣付けをさせる。	○学習の習慣化が確立できたか。成績向上につながったか。 ○基礎学力定着ができたか。 ○実力テストや進学基礎講座、スタディサプリ等が有効的に活用されたか。 ○宿泊プログラムを通して、良い影響を与えられたか。 ○英検の合格率を上げられたか。	○家庭学習習慣の確立に向けて、クラッシー・スコライトを活用し、勉強時間の記録をさせるが、時間は少ない。 ○英検の合格率は2級の合格者は25%増、準2級は5%減、3級は4%増であった。英検の指導原案を作成途中であるが、今後英検対策週間、面接練習週間等を実施する必要あり。 ○プリティッシュヒルズ語学研修では英語への興味をわかせる、動機付けとしての効果は出ている。	B	○家庭学習習慣確立のために生徒の意識付けが今最も問われている。家庭学習記録を付けることの定着についてもアナウンスをしていくことが必要。 ○英語の外部検定に関してもチームとしての指導が必要。 ○アスリートコースは体育教員を目指す生徒養成に力を入れたい。選抜Ⅱコースは人間性を磨き、確実な進路実現を目指す。選抜Ⅰコースの学力の底上げをする。S 特コースは進学実績強化のために更なる施策を練る。	授業で成績が伸びることを実感でき、励みになったとの意見有。進学実績ランキングに掲載されるくらい頑張ってもらいたい。英検の合格率が上がっていることは評価が高い。
	生徒個々の適性を見極め、将来有益な人材として活躍できるよう指導する。	多様な入試に対し、状況に応じた対応が求められている。生徒と対話する時間や機会が減少している現実がある。	授業や生徒会活動、クラブなどいろいろな活動を通して生徒理解に努める。 生徒との面談はクラス担任が中心になるが、関わりをもつことで生徒の新たな一面を見つけ出す。 4年制大学進学率70%を追及していく。低学年へのガイダンス強化。	○適切な進路情報を提供し、生徒のモチベーションを上げられたか。 ○センター試験受験率50%、大学進学率70%が達成できたか。 ○外部模試の事前事後指導、及び分析ができ実力養成ができたか。	○1,2年対象の大学見学会を4コース実施。進路ガイダンス実施。推薦・AO入試に関する情報提供はできている。希望の進路の把握はできている。保護者向けの進路ガイダンスを実施し、意識向上に努めた。 ○大学進学率は76%であった。 ○早慶上理:6。GMARCH:8、日東駒専:21の合格者数	B	○出願数は増えているとのことであるが、センター試験受験者を増やし、進学率を上げる。 ○教務、進路、担任、教科が一連の流れになるように連携をとった指導をする。 ○大学の定員の厳格化によって合格者数が減っているの、しっかりした進路指導が必要。	大学入試が多様化、難化する中で生徒に情報提供することはこれからさらに必要である。進学実績向上のために頑張ってもらいたい。
2	社会の中での自分のおかれている立場を理解し、自分を律する心を育成する。	挨拶ができる生徒が多いが、一部には声の出ない生徒がいる。	生徒の主体的な活動を促し、委員会主導で各種運動を実施する。乗車指導、頭髪服装検査、身だしなみセミナーの実施。いじめアンケートの実施。	○挨拶を自分からできるようになったか。 ○校内外でのマナーを守ることができたか。	○挨拶運動を行った。 ○身嗜みセミナーを行ったが、一部の生徒の服装が徹底できなかった。 ○乗車指導を行った。	B	○生徒指導は継続的な指導が必要。電車内マナーに関しては第三者から特に注意を受けるポイントであるので、乗車指導により力を入れていく。	学校内評価では継続的な指導が必要とのことであるが、最前線にいる元気な生徒が挨拶してくれるのは高評価である。
3	生徒の心身を鍛え、特技・特性を伸ばし、集団の一員として行動できるようにさせる。	多くの生徒がクラブ活動に参加している。学校行事に積極的に参加し、取り組むことができるようになってきている。校歌をしっかりと歌う生徒が増えている。	ホームルームやクラブ活動を利用して生徒同士で会議をもたせ、活動を行う。その中でリーダーや役割分担・係の責任を持たせる。集団行動を通して規律正しい行動を目指す。	○日々のクラブ活動や各種行事等で、後輩への指導ができ、よい影響を与えられたか。	○陸上チア柔道部ソフトテニスと太鼓部全国大会出場。○野球部サッカー一部は県大会上位入賞は叶わなかったが、全校応援で学校が一つにまとまった。	A	○OMOプライド、MOブランドを掲げ、意識高揚に努める。	公式戦において、甲子園優勝チームと良い試合ができたことは高評価である。他校ではグラウンドが遠いケースが多い中で、近くて立派なグラウンドがあることは高評価である。
4	父母の期待、地域のニーズを理解し、協同・協力が出来、他人のために行動がとれる心を育てる。	PTA、後援会との連携ができていて学校行事での協同や教育活動の円滑な運営に成果を上げている。特に、文化祭では保護者の企画によるイベントも運営され学校関係者が一丸となった活動も展開されている	保護者の声を聞き、そのニーズに応える。積極的に学校開放をして、多くの方に理解を得て教育効果を上げる。外郭団体の活動にも積極的に参加し広い視野と感性を磨く。	○保護者の学校への信頼度が高まったか。 ○卒業生の学校への関心を高めることができたか。 ○近隣地域との連携がとれて貢献ができたか。	○けやき祭では縁日、木工、バザーと提供するものが増えた。 ○同窓生のけやき祭での活動ができた。 ○生徒会による河川清掃の実施。 ○和太鼓、吹奏楽、チア部等による近隣施設訪問やイベント参加ができている。	A	○保護者が学校と関わりをもつ機会を継続的に作っていく。 ○保護者の中でも仕事、育児、介護等で多忙な方が多い。その中で役員の在り方を検討し、効率化を図る。 ○協力的な役員が多かったの、行事運営を円滑に行うことができた。保護者に感謝しつつ、ニーズに応えたい。	PTAの役員では前向きで協力的である方が多い。これからも意見を吸い上げ、協力して地域に根ざした学校作りをしていってほしい。

達成度 A:ほぼ達成(80%) B:概ね達成(60%程度) C:変化の兆し(40%前後) D:まだ不十分(40%未満)